

平成29年度大学院地球社会統合科学府

修士課程（冬季）入学試験

入学試験問題

⑥ 経 済

注意事項

1. 問題は「はじめ」の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、解答用紙に受験番号等を明記すること。
3. 解答用紙は、必ず全部提出すること。
4. 問題冊子は持ち帰ってよい。
5. 指定の解答用紙を用いること。

次の（問題1）から（問題4）までの中から2つを選択し、問題番号を明記した上で解答しなさい。ただし、問題ごとに異なる解答用紙を用いること。

（各問題100点、合計200点満点。）

（問題1）

アメリカの新大統領の誕生を契機として、世界の貿易のあり方は大きく変わろうとしている。それでは、幕末～1980年代まで、日本の貿易はどのような状態にあったのであろうか。貿易政策、貿易収支、貿易依存度の変遷を中心に説明しなさい。

（問題2）

中国経済においては依然として国有企業が一定のシェアを占めている。国有企業が中国経済の中で引き続き影響力を保持していることのメリットとデメリットを説明しなさい。その上で、今後国有企業改革はどのような方向で進めるべきか否かという点について、自らの考えを述べなさい。

（問題3）

現在、「第四次産業革命」という言葉が、頻繁に新聞や雑誌などで見受けられる。それでは、経済史学の世界においては、「産業革命」についてどのような議論がなされてきたのであろうか。諸説を説明した上で、自らの考えを述べなさい。

（問題4）

経済発展に成功する途上国となかなか成功しない国とが存在する。両者の間を分かつ要因としてどのようなものが考えられるであろうか。また長期的に見ると、中所得国のレベルにまで到達したものの、更に成長して高所得国のレベルにまで達することが出来た国は非常に少ない（世界銀行が指摘した「中所得国の罠」）。その理由としていかなる要因が考えられるであろうか。それぞれにつき、経済学の理論を踏まえながら自らの考えを述べなさい。